

万葉花譜

選歌・題字：中西進 花寄せ：正和勝之助 額装：大黒幸雄

【「万葉花譜」の由来】

「万葉花譜」は、万葉集でうたわれている36種類の植物とその植物がよまれている36首の歌を選び出し、日本画を中心とする37人の画家によってを描いたものです。約8メートルの額装の中に37の扇面を配しています。

平成12年3月、万葉集をはじめとする日本文学研究の第一人者である中西進氏（大阪女子大学学長）と地元高岡出身の正和勝之助氏（郷土史研究家）・大黒幸雄氏（伏木文化会会長）によって、大伴家持の越中国守在任1250年を迎えるのを機に制作・寄贈されました。選歌・題字は中西進氏によるものです。

◆わらび（ワラビ）

石ばしる垂水の上のさ 蕨の萌え出づる春になりけるかも（志貴皇子 巻8-1418）

浜田泰介（はまだ・たいすけ） 日本画

1957年京都市立美術大学（現京都市立芸術大学）大学院修了。1958～61年毎日ベストスリー展（毎日新聞社主催）に連続4回選抜される。1996年～翻刻寺障壁画制作中。著書『四国八十八ヶ所霊場巡り』（サンケイ新聞ニュースセンター）等。

◆うめ（ウメ）

わが園に梅の花散るひさかたの天より雪の流れ来るかも（大伴旅人 巻5-822）

生田宏司（いくた・こうじ） メゾティント版画のカラーージュ

1976年多摩美術大学日本画科卒業。上野泰朗、加山又造、堀文子に学ぶ。1994年第15回国際蔵書票ビエンナーレ展名誉メダル賞（ポーランド）など、受賞多数。現在、カリフォルニア版画家協会国際会員・東北芸術工科大学非常勤講師。

※メゾティント版画…17～18世紀、ヨーロッパの銅版画の製版技法のひとつで、鋭い刃を持つ道具（ロッカー）で版面に縦横に傷をつけ、白黒の美しい階調を持つ印刷効果を出すもの。

※生田氏の作品は、台紙に金箔を置き、その上に雁皮紙を貼ってマチエール（渋味）をつけ、メゾティントした梅を切り抜いてカラーージュしてある。

◆やまぶき（ヤマブキ）

山吹のほへる妹が朱華色の赤裳の姿夢に見えつつ（作者未詳 巻11-2786）

後藤芳世（ごとう・ほうせい） 日本画

前田青邨、平山郁夫に師事。1967年日本美術院院友に推挙される。1981～88年愛知県立芸術大学日本画専任講師。愛知芸術大学で法隆寺壁画、高松塚古墳壁画の模写制作指導。現在日本美術院院友・日本美術家連盟会員。

◆さくら（サクラ）

あしひきの山の間照らす桜花この春雨に散りゆかむかも（作者未詳 巻10-1864）

平松礼二（ひらまつ・れいじ） 日本画

鬼頭篁らに師事。1960年青龍社第32回展に初入選。1961年愛知県立旭丘高等学校美術課程（日本画）を卒業。1965年愛知大卒業。

◆すみれ（スミレ）

春の野にすみれ摘みにと来しわれそ野をなつかしみ一夜寝にける（山部赤人 巻8-1424）

藤野直也（ふじの・なおや） 日本画

1979年愛知県立芸術大学日本画科卒業。院展初入選。1981年同校大学院終了。中部読売美術大賞展博報堂賞。現在日本美術院院友。

◆ふぢ（フジ）

春へ咲く藤の末葉の心安にさ寝る夜そなき児ろをし思へば（東歌 巻14-3504）

吉村芳生（よしむら・ほうせい） 色鉛筆絵

1971年山口美術短期大学卒業。1979年イギリス国際版画ビエンナーレ'79アーガス賞など、受賞多数。1983年『年鑑日本の現代版画』（講談社刊）でベスト5に選ばれる。

◆もも（モモ）

春の苑紅にほふ桃の花下照る道に出で立つ少女（大伴家持 巻19-4139）

熊原清久（くまはら・きよひさ） 日本画

1979年愛知県立芸術大学大学院研修科修了。1986年東京セントラル大賞展佳作賞など受賞多数。春の院展10回、院展11回入選。現在、日本美術院院友。

◆かたかご（カタクリ）

物部の八十乙女らが汲みまがふ寺井の上の堅香子の花（大伴家持 巻19-4143）

秦誠（はた・まこと） 日本画

1977年愛知県立芸術大学大学院絵画専攻（日本画）研修生修了。1997年山種美術館賞展など出品多数。現在日本美術院特待・愛知芸大日本画非常勤講師。

◆やなぎ（シダレヤナギ）

うちのぼる佐保の川原の青柳は今は春べとなりけるかも（大伴坂上郎女 巻8-1433）

小堀墨秀（こぼり・ぼくしゅう） 墨彩画

聖山南風に学ぶ。現在熊本県文化懇話会名誉会員・熊本県日本画協会名誉会員・日本扇面芸術協会理事・毎日新聞女性教室日本画講師。

◆**たちばな（ミカン）**
橘の蔭履む路の八衢に物をそ思ふ妹に逢はずして（三方沙弥 巻2－125）

村田林藏（むらた・りんぞう） 日本画

1978年東京芸術大学日本画科卒業。1990年春の院展入選。1993年再興78回院展入選。日本美術院院友に推挙される。

◆**あしび（アセビ）**
わが背子にわが恋ふらくは奥山の馬酔木の花の今盛りなり（作者未詳 巻10－1903）

井上初江（いのうえ・はつえ） 日本画

中央大学卒業。真野崗に学ぶ。1998年日露現代芸術祭など、受賞多数。現在、神奈川美術協会員。

◆**つつじ（ツツジ）**
山越えて遠津の浜の石つつじわが来るまでに含みてあり待て（作者未詳 巻7－1188）

前本ゆふ（まえもと・ゆふ） 日本画

1968年多摩美術大学日本画科入学。1976年加山又造のモデルを始める。1990年画文集『ゆふ』（加山又造と共著：中央公論社）。

◆**かきつはた（カキツバタ）**
われのみやかく恋すらむ杜若丹つらふ妹は如何にかあるらむ（作者未詳 巻10－1986）

霜鳥忍（しもとり・しのぶ） 日本画

松尾敏男に学ぶ。1969年横浜国立大学教育学部美術課卒業。1972年春の院展初入選。1977年院展初入選。1985年上野の森絵画大賞展入選など、受賞多数。現在日本美術院研究員、横浜美術協会会員。

◆**ゆり（ヤマユリ）**
筑波嶺のさ百合の花の夜床にも愛しけ妹そ昼も愛しけ（大舎人部千文 巻20－4369）

稲越泉美（いなこし・いずみ） 日本画

1980年日本美術学校日本画専科卒業。1985年上野の森絵画大賞展初入選。1997年新興美術院展奨励賞など、受賞多数。現在、新興美術院会友。

◆**あぢさゐ（アジサイ）**
紫陽花の八重咲く如くやつ代にをいませわが背子見つつ思はむ（橘諸兄 巻20－444

8)

鈴木秀夫（すずき・ひでお） ネイチャイラスト

1953年東京慈恵医科大学卒業（外科医）。1975年頃から画を描き始め、鎌倉市内で個展を3回開催。現在鎌倉市の医療法人湘和会、湘南記念病院理事長・院長。

◆**くれなゐ（ベニバナ）**
紅の花にしあらば衣手に染めつけ持ちて行くべく思ほゆ（作者未詳 巻11－2827）

田中愛三（たなか・あいぞう） 日本画

1971年愛知県立芸術大学日本画科（片岡球子に師事）卒業。1974年創画展出品（以後春季展4回入選）。

◆**はちす（ハス）**
勝間田の池はわれ知る蓮無し然言ふ君が鬚無き如し（作者未詳 巻16－3835）

渡辺鏗空（わたなべ・がくくう） 墨彩画

東京美術学校（現東京芸術大学）日本画科に学び、小林古径に師事。水墨画個展を8回開催。現在、渡辺絵画教室・渡辺陶芸教室・熊谷窯主幹。

◆**ねぶ（ネムノキ）**
屋は咲き夜は恋ひ寝る合歡木の花君のみ見めや戯奴さへに見よ（紀女郎 巻8－1461）

林田直子（はやしだ・なおこ） 日本画

高浜虎喜に師事。1960年熊本大学法文学部史学科卒業。1955年～熊本県美術協会展（県展）に出品、受賞3回。1982年～国際扇面展に出品、受賞5回。現在熊本県美術協会会員・日本扇面芸術協会委員。

◆**つきくさ（ツククサ）**
つき草の移ろひやすく思へかもわが思ふ人の言も告げ来ぬ（大伴坂上大嬢 巻4－583）

堀田淑支（ほった・としえ） 日本画

1984年愛知県立芸術大学日本画科卒業。1989年春の院展初入選。1996年愛知県立芸術大学神護寺源頼朝像模写に参加。現在日本美術院院友。

◆**かほばな（ヒルガオ）**
高円の野辺の容花面影に見えつつ妹は忘れかねつも（大伴家持 巻8－1630）

山口義夫（やまぐち・よしお） 日本画

別所被生に学ぶ。1958年全国勤労者美術展3回連続入賞、無鑑査となる。1981年魚津水族館のシンボルマークに当選。1995年

『万葉路四季の花と風景画展』（於：万葉歴史館。1999年伏木にて逝去。

◆はまゆふ（ハマユウ）

み熊野の浦の浜木綿百重なす心は思へど直に逢はぬかも（柿本人麿 巻4－496）

千村俊二（ちむら・しゅんじ） 日本画

1973年愛知県立芸術大学大学院日本画科修了。1977年日本美術院院友推挙。以後春・秋入選14回。現在日本美術院院友・愛知県

立芸術大学模写委託事業に参加。

◆はぎ（ハギ）

わが背子が挿頭の萩に置く露をさやかに見よと月は照るらし（作者未詳 巻10－2225）

岡崎忠雄（おかざき・ただお） 日本画

1968年京都市立美術大学日本画科卒業。1971年創画会春季展賞（以後4回受賞）、1973年京都府日本画新人賞、1981年山種

美術館賞展など受賞多数。1991年『岡崎忠雄画集』（求龍堂）。

◆あさがほ（キキョウ）

朝顔は朝露負ひて咲くといへど夕影にこそ咲きまさりけれ（作者未詳 巻10－2104）

伊藤みさと（いとう・みさと） 日本画

1970年多摩美術大学日本画専攻卒業。1983年春の院展入選（以後15回入選）。1984年院展入選（以後12回入選）。

1986年日本美術院院友推挙。

◆からあみ（ケイトウ）

恋ふる日のけ長くあればみ苑生の韓藍の花の色に出でにけり（作者未詳 巻10－2278）

箕輪喜八朗（みのわ・きはちろう） 水彩画

現在、神奈川県美術家協会運営委員・国際現代美術家協会代表理事／常任審査委員。

◆くず（クズ）

雁がねの寒く鳴きしゆ水茎の岡の葛葉は色づきにけり（作者未詳 巻10－2208）

松村公嗣（まつむら・こうじ） 日本画

1972年春の院展初入選。1974年愛知県立芸術大学大学院修了。片岡球子に師事。1979年春の院展奨励賞、1998年日本美術

院賞（大観賞）など、受賞多数。現在日本美術院同人・愛知県立芸術大学助教授

◆をばな（ススキ）

秋づけば尾花が上に置く露の消ぬべくも吾は思ほゆるかも（日置長枝娘子 巻8－1564）

角島直樹（かどしま・なおき） 日本画

1972年愛知県立芸術大学絵画専攻（日本画）卒業、春・秋の院展に初入選。片岡球子に師事。1974年同校大学院絵画専攻修了、

1971～74年春の院展で奨励賞。現在院展特待。愛知県立芸術大学助教授。

◆つまま（タブノキ）

磯の上の都万麻を見れば根を延へて年深からし神さびにけり（大伴家持 巻19－4159）

園田幸朗（そのだ・さちろう） 水彩画

1956年東京都立大学理学部生物学科卒業。現在はフリーで、葉山の町民大学など自治体主催のカルチャー教室や三浦半島各地での自然

観察会、理科教員研修の講師、植物画の指導や個展などをしながら自然環境を守るための活動を支援している。

◆いちし（ヒガンバナ）

路の辺の壺師の花のいちしろく人皆知りぬ我が恋妻を（柿本人麿歌集 巻11－2480）

木村恵子（きむら・けいこ） 日本画

1973年愛知県立芸術大学大学院修了。片岡球子に師事。院展初入選（以後23回入選）。1975年日本美術院院友に推挙される。現在、

日本美術院院展特待・名古屋芸術大学非常勤講師。

◆なでしこ（ナデシコ）

野辺見れば撫子の花咲きにけりわが待つ秋は近づくらしも（作者未詳 巻10－1972）

浦田由佳子（うらだ・ゆかこ） 日本画

1992年名古屋芸術大学美術学部日本画研究科修了。浦田正夫に師事。1998年神龍寺本堂障壁画を完成する。

◆まつ（マツ）

一つ松幾代か経ぬる吹く風の声の清きは年深みかも（市原王 巻6－1042）

瀧川虹風（たきがわ・こうふう） 日本画

1974年野村胡堂師（観世流）舞台鏡板揮毫助手。1979年小山文彦師（観世流）舞台鏡板揮毫。1983年国立能楽堂開場記念「能

画・能面三人展」能楽彩色・能楽制作多数。現在日本能楽院同人・アテネ教育出版能画主任教授。

◆もみち（モミジ）

経もなく緯も定めず少女らが織れる黄葉に霜な降りそね（大津皇子 巻8－1512）

寺田栄次郎（てらだ・えいじろう） テンペラ画

1974年愛知県立芸術大学大学院修了。1975～76年東京芸術大学美術学部高松塚古墳再現研究助助手。1986年第60回国展会

友優作賞、1992年第66回国展安田火災美術振興奨励賞など受賞多数。現在国画会会員、金沢美術工芸大学教授。

※テンペラ画・西洋画の一種で、顔料を膠質または糊の類で練って描いた絵。材質の効果としては、油絵と水彩画との中間的なものとなる。

◆をみなへし（オミナエシ）

手に取れば袖^{そで}さへにほふ^{をみなへし}女郎花^{しらつゆ}この白露^をに散らまく惜しも（作者未詳 巻10-2115）

田中順雄（たなか・つぐお） 日本画

1970年愛知県立芸術大学日本画科（片岡球子教室）卒業。日本美術院入選・神奈川県美術展入選個展・同人展など多数開催

※画家の略歴は添付資料によった。

◆たけ（タケ）

わが屋戸^{やど}のいささ群竹^{むらたけ}吹く風の音のかそけきこの夕^{ゆふべ}かも（大伴家持 巻19-4291）

佐藤良助（さとう・りょうすけ） 日本画

1967年世田谷区新進画家展銀賞。1969年多摩美術大学日本画科（横山操教室）卒業。1978年スイス・バーゼル市民賞など、受賞多数。1990年世田谷に佐藤記念館設立。現在日本美術家連盟会員。

◆つばき（ツバキ）

巨勢山^{こせやま}のつらつら椿^{しの}つらつらに見つ思^{さかとのひとり}はな巨勢の春野を（坂門人足 巻1-54）

小泉淳作（こいずみ・じゅんさく） 墨彩画

1952年東京美術学校卒業。1977年山種美術館賞展優秀賞。1988年『アトリエからの眺め』（築地書館）。1980年『小泉淳作画集』（求龍堂）。1994年、羽田空港新ターミナルビル・全日空VIPルームに「新雪の鳥海山」「濤声」を描く。

松村周子（まつむら・しゅうこ） 水彩画

1961年女子美術大学短期大学部造形美術科卒。1968年フリーとなり、山野草水彩画の制作を始める。1987年山下桜子に師事。1980年全展新人賞など、受賞多数。同年、全日本美術協会会員推挙。1984年～85年、NHK婦人百科のイラストを手がける。

◆すぎ（スギ）

杉の野にさ躍^{まど きざし}る雉^ねいちしろく音^なにしも哭^{こもりづま}かむ隠妻^{こもりづま}かも（大伴家持 巻19-4148）

篠原貴之（しのはら・たかゆき） 水墨画

1986年京都市立芸術大学彫刻科卒業、同大学院彫刻科入学。1990年藤原六間堂、李庚らに学び、水墨画を始める。1992～94年中国中央美術学院国画科に、文部省派遣中国政府国費留学生として留学。1998年～「篠原貴之と水墨画の旅」連載（『季刊水墨画』）。

◆やまたちばな（ヤブコウジ）

この雪^{けのこ}の消残る時にいざ行かな山橋^{けのこ}の実の照るも見む（大伴家持 巻19-4226）

遠藤道子（えんどう・みちこ） 日本画

富山県生まれ。日展入選6回、院展入選8回、春の院展入選8回など受賞多数。日本美術院院友。

高岡市万葉歴史館 2000年4月1日作成

高岡市万葉歴史館

〒933-0116 富山県高岡市伏木一宮 1-11-11

TEL 0766-44-5511 FAX 0766-44-7335

ホームページ <http://www.city.takaoka.toyama.jp/manreki/INDEX.HTML>